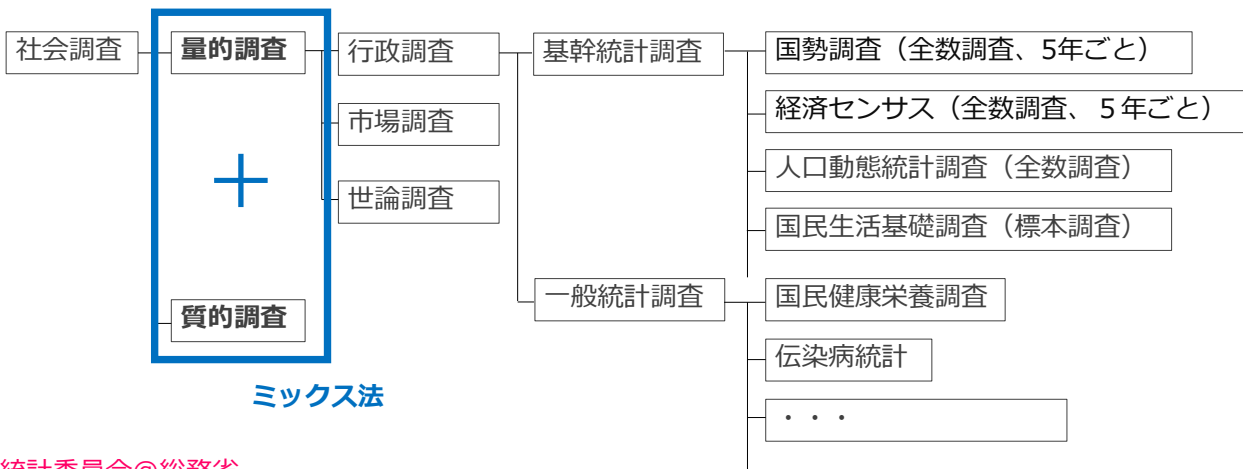


## 社会調査



### 統計委員会@総務省

- ・統計に関する基本的事項、基本計画の案、基幹統計調査の変更などに関する調査審議
- ・基本計画の実施状況に関し総務大臣等に勧告
- ・関係大臣に必要な意見を述べる

委員：13人、学識経験のある者のうちから内閣総理大臣が任命（統計法第46、47条）

幹事：23人、総務省及び関係行政機関の職員のうちから、内閣総理大臣が任命（統計法第49条）

## 第36回 問題84

次のうち、統計法における基幹統計調査として、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 社会福祉施設等調査
- 2 福祉行政報告例
- 3 介護サービス施設・事業所調査
- 4 労働安全衛生調査
- ⑤ 国民生活基礎調査

**第31回 問題84**


社会調査に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 統計調査とは、社会事象を質的に捉えることを目的とした社会調査である。  
量的
- 2 市場調査とは、行政の意思決定に役立てることを目的として市場の客観的基礎資料を得るための社会調査である。企業や生産者
- 3 世論調査とは、自治体の首長の意見を集約するための社会調査である。  
世間一般の社会意識
- 4 アクションリサーチとは、特定の状況における問題解決に向けて調査者が現場に  
関与する社会調査である。
- 5 センサスとは、企業の社会貢献活動を把握することを目的とした社会調査である。  
行政上の統計調査

**第30回 問題84**

現行の統計法に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 一般統計調査は、行政機関が行う統計調査のうち基幹統計調査以外の調査のことをいう。
- 2 基幹統計調査である国勢調査は、10年ごとに無作為抽出による調査が行われる。  
5年ごと
- 3 調査を実施する行政機関は、その機関内に統計委員会を置かなければならない。  
統計委員会：総務省に設置された第三者機関
- 4 基幹統計の公表の場合には、インターネットを利用した公表が禁じられている。  
禁じられていない
- 5 成年被後見人には、基幹統計調査の報告を求められることはない。  
報告義務あり

量的調査		
		
	<b>標本調査</b>	<b>全数調査（悉皆調査）</b>
非確率抽出（有意抽出）	確率抽出法	例：国勢調査 （5年毎の留置調査）
雪だるま法（スノーボールサンプリング） 機縁法（縁故法）	単純無作為抽出 系統抽出：等間隔で抽出 層化抽出：母集団情報から層化して抽出 多段抽出：段階に分けて抽出	<b>母集団の推定力</b> →
	<b>標本調査</b>	<b>全数調査</b>
非標本誤差	○	○
標本誤差	○	×
<p>横断調査：ある一時点での調査  縦断調査：時系列での複数回調査</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>パネル調査</b>：同一の調査対象に対して継続的に調査する手法</li> <li>・ <b>コーホート調査</b>（コホート調査）：同じ時期に生まれた人など、共通の属性をもつ集団の中からサンプルを選び調査を繰り返す手法</li> <li>・ <b>トレンド調査</b>（動向調査）：調査対象の属性を定義し、その定義に該当するサンプルに対して調査を繰り返す手法（小学6年生を対象とする毎年の全国学力テスト等）</li> </ul>		

### 第35回 問題86

標本調査に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 標本調査では、非標本誤差は生じない。
- 2 **標本抽出には、性別や年齢といった母集団の特性を基準にする抽出法がある。**  
層化抽出法
- 3 標準誤差は、質問の意味の取り違え、回答忘れなど、回答者に起因する。  
非標本誤差
- 4 系統抽出法では、抽出台帳に規則性がない場合、標本に偏りが生じる。
- 5 確率抽出法では、標本誤差は生じない。

**第29回 問題86**

量的調査における標本抽出に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 単純無作為抽出法は、母集団の規模にかかわらず作業時間が節約できる効率的な抽出法である。  
単純無作為抽出では時間がかかる
- 2 系統抽出法では、抽出台帳に何らかの規則性がある場合、標本に偏りが生じる危険がある。
- 3 標本抽出では、男女別や年齢別の割合など、あらかじめ分かっている母集団の特性を利用してはならない。  
層化抽出法：あらかじめ分かっている母集団の特性を利用
- 4 用いる尺度の問題から測定上の誤差が生じることを標本誤差という。  
非標本誤差（測定誤差）
- 5 機縁法は確率標本抽出の一種である。  
非確率標本抽出

**第32回 問題86**

調査対象者の抽出に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 標本抽出方法の確率抽出と非確率抽出では、非確率抽出の方が母集団に対する代表性が高い方法である。  
確率抽出
- 2 適切に抽出された標本調査であれば、標本誤差は生じない。  
標本調査：標本誤差も非標本誤差も生じる
- 3 調査対象者の多段抽出は、単純無作為抽出に比べて母集団の特性を推定する精度が高い。  
単純無作為を超える可能性があるのは層化抽出
- 4 系統抽出法は、抽出台帳に一定の規則性がある場合には、抽出した標本に偏りを生じることはない。  
系統抽出法は、規則性があると標本が偏る
- 5 スノーボール・サンプリングは、非確率抽出法の一つである。

**第30回 問題86**

全数調査と標本調査に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 標本調査の場合、測定誤差は生じない。  
標本調査：標本誤差も測定誤差も生じる
- ② 無作為抽出による標本調査の場合、母集団の性質について統計的に推測できる。
- 3 標本調査の場合、標本誤差は生じない。  
標本調査：標本誤差も測定誤差も生じる
- 4 全数調査の場合、測定誤差は生じない。  
全数調査：測定誤差は生じる
- 5 全数調査の場合、母集団から一部を取り出し、取り出した全員を対象に調査する。  
標本調査

**第34回 問題85**

横断調査と縦断調査に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 同一の調査票を使って、昨年はN県、今年はP県で量的調査を実施することは、パネル調査に当たる。
- 2 横断調査と縦断調査の違いは、調査地域の広さや調査対象者数などといった調査の規模が異なることによる。横断調査：1回、縦断調査：複数回
- 3 パネル調査では、調査を重ねるごとに調査対象者が増加する傾向がある。  
パネルの摩耗
- ④ 出生時期を同じくする集団を調査対象にして、複数の時期に調査を行うことは、縦断調査に含まれる。コーホート調査
- 5 縦断調査のデータ分析は、横断調査に比べて、二つの変数間で原因と結果という因果関係を推論することには適していない。

**第27回 問題86**

横断調査と縦断調査に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 二変数の関連について、横断調査であれば因果関係を推論することができるが、パネル調査ではできない。
- 2 **○** パネル調査における「パネルの摩耗」とは、第2回・第3回と回を重ねるごとに回答者数が減っていくことをいう。
- 3 S市の中だけで一度だけ行う市民意識調査は、全国規模ではないので横断調査とはいえない。
- 4 同じ内容の世論調査を、1月に北海道、2月に東北地方、3月に関東地方でと日本を縦断し最後に九州・沖縄地方で行えば、縦断調査といえる。
- 5 今年、T市で標本抽出を行って市民意識調査を行い、来年再び同じT市で標本抽出を行って同じ内容の市民意識調査を行うならば、パネル調査といえる。

**第30回 問題87**

横断調査と縦断調査に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 トренд調査とは、同一対象者を継時的に追跡することを通じて、調査対象者の変化を知ろうとする調査法である。 **パネル調査**
- 2 同じ調査票を用いて、4月にR市、5月にS市で調査を行えば、縦断調査といえる。 **縦断調査ではない**
- 3 パネル調査では、調査の回数を重ねるにつれてサンプル数が増加する。 **減少**
- 4 横断調査は、ある一時点での特定の市で実施する市民意識調査は含まれない。 **含まれる**
- 5 **○** 横断調査では、因果関係を特定するに当たり制約が伴う。

## 調査方法

			代表性	簡易性	回収率	匿名性	測定誤差
■ 訪問調査	面接法	自記式		×	○	×	×
		他記式		×	○	×	○
	留置法	自記式					×
■ 郵送調査		自記式					×
■ 電話調査		他記式		○	×	○	○
■ 集合調査			×				
■ インターネット調査			×	○		○	

## &lt;質問紙作成時の注意点&gt;

- ・ **ダブルバレル質問**：「旅行や買い物は好きですか？」
- ・ **キャリーオーバー効果**：前の質問が後の質問に影響する
- ・ **イエステンデンシー**：「はい or いいえ」の質問には「はい」と答えやすい

## 第29回 問題87

社会調査における調査票を用いた方法に関する次の記述のうち、適切なものを1つ選びなさい。

1 郵送調査は、回答者が十分に時間をかけて回答することができるため、質問項目数の上限がないというメリットがある。

質問項目が多いと回収率等に影響

2 集合調査は、特定の団体が集まる会合の場で実施できるため、代表性のある標本を確保しやすいというメリットがある。

代表性のある標本を確保しにくい

3 電話調査は、近年、固定電話に加え、携帯電話を持つ人が増えてきたため、回収率が高いというメリットがある。

回収率は高くない

4 留置調査は、調査票を配布したその場で回答がなされないため、他の方法に比べて回収率が低いというデメリットがある。

回収率は高い

5 インターネット調査は、インターネット上で調査対象者を公募する場合、代表性の偏りが生じるといデメリットがある。

**第30回 問題88**

質問紙調査の方法に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 郵送調査法は、返送時に指名を記入する必要があるため、匿名性を確保するのが難しい。  
氏名を記入する必要はない
- 2 訪問面接調査法は、プライバシーに関わる質問をするのに適している。  
適さない
- 3 複雑で難しい質問には、自記式で質問紙に記入する方法が適している。  
他記式
- 4 留置調査法は、他記式なので、記入漏れや記入ミスを抑制できる。  
自記式
- 5 調査対象者本人の回答であるかを確認するには、他記式による記入が望ましい。

**第36回 問題87**

次のうち、質問への回答を他記式で記入する社会調査として、適切なものを2つ選びなさい。

- 1 郵送調査
- 2 留置調査
- 3 個別面接調査
- 4 集合調査
- 5 オペレーターによる電話調査

**第34回 問題86**

質問紙調査に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- ① インターネット調査は、自記式であるため、調査コストを抑えることができる。
- 2 留置調査は、他記式であるため、調査対象者以外の者が回答することを回避できる。  
自記式（自記式）
- 3 郵送調査は、他記式であるため、調査対象者の匿名性が確保されにくい。  
自記式（自記式）
- 4 電話調査は、自記式であるため、質問数が多い調査に向いている。  
他記式（他記式）
- 5 訪問面接調査は、自記式であるため、調査者の態度が調査対象者の回答に与える影響を抑制できる。  
他記式（他記式）

**第31回 問題85**

質問紙を用いた調査に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 調査対象者から口頭で聞き取った内容を、調査員が記入する方法を自記式という。  
他記式
- ② プライバシーに関する質問は、自記式の方が他記式よりも望ましい。
- 3 自記式の方が他記式よりも、誤記入が起こりにくい。  
自記式⇔他記式
- 4 他記式の方が自記式よりも、調査対象者以外の方が本人の代わりに回答する可能性が高い。  
自記式⇔他記式
- 5 調査対象者が調査員に口頭で答えた後に、調査対象者が調査票に記入する方法を他記式という。  
調査員

**第30回 問題89**

質問紙の作成に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

1 「糖尿病予防のために食事や運動に気を付けていますか」というように、複数の事柄は一つの質問文で尋ねる方が望ましい。

ダブルバーレル質問

2 前の質問の回答が次の質問の回答に影響を与えることを促すような質問の順番にすることが望ましい。

キャリーオーバー効果

3 「家事は一般的に夫婦で平等に分担すべきですか」という質問文では、回答者が自分の家庭でそうすべきだと考えているかどうかは分からない。

4 意識調査の質問では、回答を明確にするために「どちらともいえない」という選択肢を設けてはならない。

設けても良い

5 調査票のレイアウトや色を工夫することは、回答をゆがめることになるので行うべきではない。

行うべき

**第33回 問題88**

質問紙の作成に当たっての留意点に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

1 一つの質問文で複数の事項を問うことは、複数の回答が同時に得られるので、質問紙の作成において望ましいと考えられている。

ダブルバーレル質問

2 パーソナルな質問とは社会一般的な意見について尋ねる質問であり、インパーソナルな質問とは調査対象者自身の意識や行動について尋ねる質問である。

パーソナル ⇄ インパーソナル

3 質問文を作成するときには、調査対象者に関心を持ってもらうために、一般的に固定的なイメージを持つステレオタイプな用語を使う必要がある。

ステレオタイプな用語では関心を持ってない

4 社会的に望ましい結果を得るために、誘導的な質問をすることは質問紙の作成として適切である。

不適切

5 前の質問文の内容が次の質問文の回答に影響を与えないように、注意を払う必要がある。

キャリーオーバー効果

## 第32回 問題88

質問紙の作成に関する次の記述のうち、適切なものを2つ選びなさい。

- 1 ダブルバーレルは、質問の中に三つ以上の論点を含めないようにする作成方法である。  
二つ以上
- ② リッカート尺度は、「当てはまる」「どちらともいえない」「当てはまらない」などというように多段階で程度を測定する選択肢で回答を求めるものである。
- 3 キャリーオーバー効果は、前に回答したことが、後に続く質問の回答へ効果的な影響を与えるので、積極的に用いるのが望ましい。  
望ましくない
- 4 質問紙の作成においては、全て○や数字で回答するようにし、文字の記述を求める自由回答の欄を設けてはいけぬ。  
必要に応じて設ける
- ⑤ フェイスシートは、回答者の年齢、学歴、家族構成などの属性を回答する欄である。

## 一般社団法人社会調査協会倫理規程

第1条：社会調査は、常に科学的な手続きにのっとり、客観的に実施されなければならない。会員は、絶えず調査技術や作業の水準の向上に努めなければならない。

第2条：社会調査は、実施する国々の国内法規及び国際的諸法規を遵守して実施されなければならない。会員は、故意、不注意にかかわらず社会調査に対する社会の信頼を損なうようないかなる行為もしてはならない。

第3条：調査対象者の協力は、法令が定める場合を除き、自由意志によるものでなければならない。会員は、調査対象者に協力を求める際、この点について誤解を招くようなことがあってはならない。

第4条：会員は、調査対象者から求められた場合、調査データの提供先と使用目的を知らせなければならない。会員は、当初の調査目的の趣旨に合致した2次分析や社会調査のアーカイブ・データとして利用される場合および教育研究機関で教育的な目的で利用される場合を除いて、調査データが当該社会調査以外の目的には使用されないことを保証しなければならない。

第5条：会員は、調査対象者のプライバシーの保護を最大限尊重し、調査対象者との信頼関係の構築・維持に努めなければならない。社会調査に協力したことによって調査対象者が苦痛や不利益を被ることがないよう、適切な予防策を講じなければならない。

第6条：会員は、調査対象者をその性別・年齢・出自・人種・エスニシティ・障害の有無などによって差別的に取り扱ってはならない。調査票や報告書などに差別的な表現が含まれないよう注意しなければならない。会員は、調査の過程において、調査対象者および調査員を不快にするような発言や行動がなされないよう十分配慮しなければならない。

第7条：調査対象者が年少者である場合には、会員は特にその人権について配慮しなければならない。調査対象者が満15歳以下である場合には、まず保護者もしくは学校長などの責任ある成人の承諾を得なければならない。

第8条：会員は、記録機材を用いる場合には、原則として調査対象者に調査の前または後に、調査の目的および記録機材を使用することを知らせなければならない。調査対象者から要請があった場合には、当該部分の記録を破棄または削除しなければならない。

第9条：会員は、調査記録を安全に管理しなければならない。とくに調査票原票・標本リスト・記録媒体は厳重に管理しなければならない。

第10条：本規程の改廃は、一般社団法人社会調査協会社員総会の議を経ることを要する。

**第36回 問題85**

社会調査における倫理に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 社会調査の対象者の抽出では、住民基本台帳から制約なく個人情報閲覧できる。
- 2 調査の協力は自由意志であるので、対象者への調査に関する説明は不要である。
- 3 社会調査では、対象者に調査協力の謝礼を渡すことが不可欠である。
- 4** 調査前に対象者の協力同意書があっても、調査の途中又は調査後の対象者からのデータ削除要請に応じることが求められる。
- 5 仮説に反した調査結果が出た場合、調査結果の公表を差し控える必要がある。

**第34回 問題84**

社会調査の倫理や個人情報保護に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 施設職員を調査対象者にして、福祉サービスの一般的な苦情対応に関する調査を実施する際に、施設職員は調査に協力する義務があると依頼状に明記した。
- 2 調査者が、研究目的で住民基本台帳から作成した調査対象者の住所リストを、調査終了後に自分の主催する介護予防啓発イベントの案内状の郵送に利用した。
- 3 質問紙調査の回答の仕方で分からない箇所があるので教えて欲しいという調査対象者からの問合せに、調査対象者全体への公平性に欠けるため説明を控えた。
- 4** 面接調査の音声データから記録を作成する際、調査対象者の名前や面接の中で出てきた人名を、アルファベット順に記号化した。
- 5 面接調査終了後、調査対象者1名から協力辞退の申出があったため、その調査対象者のデータについて年齢と所属を書き換えてから分析に利用した。

**第30回 問題85**

社会調査における個人情報保護に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 社会調査は公益性が高いため、調査で得られた個々の調査対象者の氏名、性別、年齢などの属性は、公表すべきである。
- 2 社会調査で得られたデータを共同研究者と検討する際には、調査対象者の意向にかかわらず、個人情報を秘匿しなくてよい。
- 3 社会調査の標本抽出が目的であれば、選挙人名簿あるいは住民基本台帳から自由に個人情報を得ることができる。
- 4 社会調査は、調査の目的、収集データの利用方法、そして結果の公表の方法をあらかじめ文書あるいは口頭で調査対象者に知らせ、了解を取った上で実施する。
- 5 量的な調査では、調査対象者の氏名や回答者番号が書かれた対象者リストと調査票を、一緒にまとめて管理しなければならない。